

九条の会 品川

NO.4 ニュース

連絡先

〒142-0053

品川区中延 5-6-14-2F

矢沢 宏之宛

TEL 050-7503-6383

E-mail

info@9jo-shinagawa.es3.jp

2006.2.1.

九条の会・品川 結成一周年のつどい

3月21日(火) 午後1時より

荏原文化センター大ホールで

昨年3月9日結成された九条の会・品川は賛同人が400名を超えました。また、区内の学園・職場・地域では9つの九条の会および準備会ができ、学習会・宣伝署名活動・旅行・懇談会・交流会など様々な活動を展開しています。

九条の会・品川としても区内で初めて平和の交流会を開催し、区内の平和に関わる多くの団体が交流をはじめています。また、例会活動も12月から始まり、偶数月の9日に集まり、講演会などを軸としながら多彩な会を企画し、多くの方に参加しやすい会をめざして取り組んでいます。

九条の会・品川では結成一周年にちなんで、九条を守る一致点で大きな共同をつくり、そして広く多くの区民に私たちの会を知ってもらうために結成一周年のつどいを3月21日(春分の日・火) 午後1時から、荏原文化センター大ホールにて開催致します。ぜひ、お出かけ下さい。

プログラム

アニメ映画「NAGASAKI・1945 ～アンゼラスの鐘～」(4面を参照)を上映します。上映後には監督の有原誠治さん(映画人九条の会よびかけ人)の講演、被爆者の方の証言、区内の各九条の会・平和団体の報告などをおこないます。なお、参加協力費1000円をお願いします。

(高校生以下は無料です)

※なお、当日、当会場で午前10時半より小中学生向けの上映会をこないます。小さなお子様連れの方はこちらにご参加下さい。



昨年3月9日「九条の会・品川」結成集会の様子

お知らせ

第二回例会

ところ：荏原第5区民集会所(大井町線下神明駅下車5分)

じかん：2月9日(木) 午後6時半から

おはなし：斎藤貴男さん(ジャーナリスト)

立正大学9条の会 結成

12月9日立正大学九条の会が正式に発足しました。発足集会には学生、学生OB、教授など学内外から18人が参加しました。集会では、教員から「専門分野と憲法九条」についての発言をいただきました。以下、要約を掲載します。

藤田秀雄名誉教授（教育学）

元学長の石橋湛山氏（元首相）の歴史にも触れながら、自身の立正大学での平和活動の話を展開。60年安保時、米大使館と国会に教職員・学生らみんなでデモに行った。教授会では「逮捕された学生をどう助けるのか」など議論したとのエピソードを紹介。また、この「会」に4つのお願い。①先人の思想を学び引き継ぐことを大事にしながら、思想を高めること（学ぶこと）。②（世界の流れを紹介しつつ）9条を守る活動は世界の流れの中の活動だと確信を持つこと。③改憲のたくらみは「平和システム」から「戦争システム」への移行。人権条項をこわす動きはすでに始まっている。9条だけではない事をしっかりつかむ事。④非暴力運動を！

浦野広明教授（税法学）

憲法を前提に税金の使い道を考えている。国民の立場から考えること。今政府税調は憲法に反した増税路線を展開している。私たちは法の定めで納税するが、福祉に使われることを前提にしていることを忘れてはいけない。改憲の中身は、9条もちろんそうだが、本来の姿から逆行している。

富山和子名誉教授（環境学）

小6で終戦を迎え、戦前と戦後を経験している。現在の憲法は全部いい。憲法は命そのもの。大事さなんていえないぐらい、身についている。一般紙に「九条の会」が載らないことなどにとっても怖さを感じる。また社会福祉を学んでいて改憲なんてとんでもない。この会の発展に期待する。

大島英樹専任講師（教育学）

準備会から一緒に活動してきた事に触れ、学んでいく事の先に“思い”に至ることが大事。みんなの共感だけではだめ。多くの思いがあり、時には共感し得ないときもあるが、発信し続け、学び続ける「会」であってほしい。自分自身も一緒に歩んでいけたらと思う。

その後、学生からも「自分と憲法九条」についての発言や先生方への質問が相次ぎました。最後に行動提起として、①学んでいこう②ピースサイクロン（平和集会）に参加しよう③学生の過半数の署名を集めよう。が確認されました。以下に、感想を掲載します。

◇先生によって違う視点から語られていてよかった。学生からの質問も率直でいい。私もできるかぎり協力するんで、みんなでがんばりましょう（M・H）

◇9条ってやっぱり大事だよなーと思った。富山先生が、社会福祉を学んでいて、戦争反対しないのはおかしいってたしかに！と思った。社福の最大の敵は戦争なんだから、やっぱり9条守りたいと思いました。（S・O）

◇大島先生の「問いかけ」の説明がすばらしいと思った。今こそ問いかけを広める時期です。問いかけを繰り返していきたいと思います。（H・N）

例会活動報告

九条の会・品川では、偶数月の9日に、区内各地で学習会・ビデオ鑑賞会・懇談会などをおこなう例会を開催しています。次回は2月9日、第3回は4月9日です。

九条の会・品川の第1回例会は12月9日、荏原第5区民集会所で立正大学の金子勝教授（九条の会・品川のよびかけ人）をお招きして行われました。当日は会場いっぱいの35名の方が参加、熱気あふれる学習会となりました。自民党の憲法草案が発表されて、それをどう読むか、が学習会のテーマでした。金子先生の話は、自民党改憲案そして民主党改憲案がどれだけ世界の平和にとって危険なものであるか、それだけにとどまらず、九条改憲阻止のためにどのようにたたかっていくのかまでをわかりやすく、そして魂をこめて話していただきました。会場からも多くの質問や意見が出て、時間が足りなくなるほどの会になりました。（感想は右下をご覧ください）

なお、当日のビデオをレジメ資料付¥1,000で販売しております。学習会などにご利用下さい。

南大井憲法九条の会（準備会）

50人を超える賛同人を集める

「第2回学習会」は12月22日、高校生を囲んでの「若者の話を聞く」会を開きました。

「第3回学習会」は2月1日、《自民党の「新憲法草案」について》金子勝・立正大学教授の講演をビデオで視聴します。

会としては、賛同人を増やす、ニュースを発行する、ポスターを貼り出すなどに取り組みながら発会集会を計画していこうと考えています。会は、賛同人全員にニュースやお知らせを配布する体制が出来ました。

◇「みんなが日本国憲法の語り部」はとても大事なことだと感じました。憲法9条を守ることの活動はいっぱいあり、楽しい愉快なことだとも感じました。金子勝先生だけにおまかせは出来ない。「私も語り部」として、一歩、一言づつ頑張っていきたい。（そんな気持ちを回文に託しました。）「カネコマサルサ来ねーか」まさにひとりひとりが前座からの出番です。ゼンザからセイザに！

◇自民案を読んでも日本国憲法との文章のちがいで基本的人権が奪われてしまうなんて分かっていませんでした。今日のお話はとても具体的でわかりやすかったです。私も「語り部」になれるようもっと理解をふかめていきたいです。家に帰ったら早速今日のことを家族に話してみます。

◇エネルギーッシュな金子先生のお話にとっても触発されました。統一運動の考え方にはとても興味を持ちました。私たちが、もっと憲法の達人になれますように、もっと深く勉強したいと思います。



ドキュメント映画「にがい涙の大地から」上映会が12月2日、中小企業センターでおこなわれました。参加者は90名、上映後、海南監督の講演もおこなわれました。写真はその様子です。



大井9条の会 3月に正式発足へ

大井9条の会では、昨年3月5日に大井地域に住む人たちで「憲法9条改悪を許さない運動をしよう！そのために大井1丁目～7丁目を対象に9条の会をつくろう」と相談したことがきっかけでこれまで準備してきました。

これまで7回の会議と4回の行動（よびかけ人や賛同人依頼行動）をやってきました。町目ごとによびかけ人を集めることは大変ですが、自分たちの住んでいる地域のよさを再確認できる行動でもあります。また、地域の方がたを対象にした「戦争体験を聞く会」をおこないました。この会では4名の方から（大井在住）戦争体験を語ってもらいました。参加した青年（26歳）は「戦争の話を自分の地元で聞けることはすごく大切。もっといろいろな地域の方々から話をききたい」と語っています。

私たちは、3月18日（14：00～15：00）の正式発足会に向けてよびかけ人・賛同人を集めています。大井に住むみなさんにぜひ当会にご賛同いただきたいと思います。

アニメ映画「NAGASAKI・1945～アンゼラスの鐘～」のご紹介

<http://nagasaki1945.info/>

監督 有原 誠治（虫プロダクション） 主な作品「はじめの一步」「陽だまりの樹」「星のカービィ」「火の雨がふる」「うしろの正面だあれ」「えっちゃんのせんそう」
ものがたり

美しいアンゼラスの鐘の音が時を告げる浦上天主堂から、北東へおよそ1キロ。小高い丘の上に建つ浦上第一病院は、元はカソリックの神学校でした。そのため礼拝や告白など宗教活動の場を併せ持ち、戦時下で疲労した市民にとって、心身共に頼りとなる存在でした。

病院に迎えられたたった一人の医師、秋月辰一郎は仏教徒でしたが、その誠実で飾らぬ人柄はカソリックの信者たちの敬愛を得ていきます。

広島に投下された新型爆弾の威力が秋月らにも伝わり、思わしくない戦況を人々が案じ始めている時、B29重爆撃機が密かに近づいていました。長崎上空に新型爆弾が投下され炸裂するやいなや、一瞬にして町とそこで生活していたあまたの人々を焼き尽くします。浦上天主堂は無惨に破壊され、炎上し、美しい鐘を響かせていたアンゼラスの鐘は吹き飛ばされ、瓦礫の中に埋もれました。

幸いにも生き残った秋月と浦上第一病院の人々は、互いに助け合い、患者までも一体となって焼け焦げた病院跡で医療救護活動に立ち上がります。しかし、その手に残されたものは粗末な器具と赤チンなどわずかな医薬品のみ。焼け爛れた無数の人々の惨状と被害の甚大さに、秋月たちは時として立ちすくみ、無力感に襲われます。

「日本人は、戦争の本当の悲惨さを知らなかった」――

死を宣告された町、長崎を人々は恐れます。しかし秋月は仲間たちと共にとどまり、懸命に活動を続けます。ふたたびアンゼラスの鐘が長崎の空に響き渡る、「復活」のときを信じて…



秋月医師が当時を語るというスタンスで、小林桂樹さんがナレーションを担当します。